

4～8月 訪問支援等の状況

当校のセンター的機能について今年度の状況をお知らせいたします。2学期以降の参考になれば幸いです。今後とも本校の相談支援活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

【① 教育相談】



電話相談の件数は、電話での問い合わせから訪問支援等に至ったケースは訪問支援に数えています。また、学校見学は、6月のオープン

スクールにて参加・見学したケースを含んでいます。

オープンスクールは、今年度も混雑を避けるため、就学前の本人・保護者、小5・6年生の本人・保護者に分けて実施しました。

また、就学検討ではない福祉の方の見学は、別日を設けて実施しました。今後も、学校や幼稚園・保育所の先生等から普段の指導・支援に役立てたいという見学希望にも対応します。個別に日程調整しますので、お気軽にご相談ください。

① 教育相談	電話相談	1件
	来校相談	1件
	学校見学	12件
	体験学習	0件
② 訪問支援	小学校	21件
	中学校	3件
	幼稚園・保育所	2件
	高等学校	3件
③外部専門家派遣		3回
④研修支援		10回

(令和6年度4月～8月)

【② 訪問支援】

相談件数が増加した昨年度同時期並みの相談件数でした。そのうち、約半数が通常の学級に在籍する児童生徒に関する相談でした。

昨年度から、より丁寧に観察等を行うために、午前・午後各2ケースに絞っています。そのため、オープンスクールや研修支援と重なる5月後半～6月の午前の予約がとりにくい状況でした。また、2学期は次年度入学を検討する方の体験学習があり、11月中旬までは午前中の予約が取りにくくなります。午後あるいは12月以降は、比較的円滑に日程調整できます。ご理解、ご協力をお願いいたします。

《こんな相談がありました》

質問 漢字の定着が弱い児童への指導を知りたい。漢字ドリルで一文字ずつ書く時は比較的よいが、「非常」の「非」の下に「日」を書き加えたり、「常」を「情」と書いてしまったりする。また、見本を見て直す際にも「非」の下に「日」を書き加えてしまうことがあった。

回答 各文字の音につられた誤りが多くみられます。熟語で塊として覚えることで、漢字や熟語の意味と形をつなぎ合わせる学習が有効です。また、授業の様子を観察すると、落ち着きがない様子が見られました。集中のコントロールの弱さが考えられます。注目させたい部分をわかりやすく拡大して示すことも有効だと考えられます。

【③ 外部専門家活用】

上記の②訪問支援の件数のうち、外部専門家を帯同したケースをカウントしています。今年度は、以下のような小・中学校で連携したケースがありました。



《こんな相談がありました》

質問 現在小学校の特別支援学級に在籍する児童が中学校に進学するうえで必要な環境調整や自立活動の指導について、小・中学校で情報共有したい。

当日の様子 小・中学校で日程調整しやすい夏季休業中に理学療法士とともに訪問しました。本人・保護者も参加し、現在の本人の様子や自立活動のメニューについて実際に中学校の先生に見ていただきました。また、理学療法士が小1から訪問支援で見てきた本人の変化や現在の配慮事項についても説明しました。中学校が情報を得て安心して受け入れることが出来るだけでなく、本人・保護者にとっても中学校への信頼が高まったと感じました。

【④ 研修支援】

昨年度の約 1.5 倍のご依頼がありました。特に夏季休業中の研修は、日程が重なることが多いです。できる限り調整しますので、7・8 月の研修は、6 月中旬までにご相談いただくと幸いです。

また、校内研修会の講師については、できるだけ事前の訪問支援を行い、その状況を踏まえた情報提供をしています。ご協力をお願いいたします。

《研修テーマの一例》

- ・特別支援教育の視点での授業づくりや指導のあり方
- ・個に応じた指導を進めるために
- ・自立活動を基盤にした指導の工夫

これからも、様々なお子さんの学びや生活の困難さについて、皆さんとともに考えていきます。心配なこと、悩んでいることなど、何かありましたら遠慮なく以下にご連絡ください。

山梨県立わかば支援学校 ふじかわ分校

〒400-0601 南巨摩郡富士川町鯉沢 5 6 7 3 - 1 2

T E L : 0556-27-0067 メール : wakafujy@kai.ed.jp

地域支援担当：保坂美智子 一瀬広朗 小野みゆき 山本千峰

